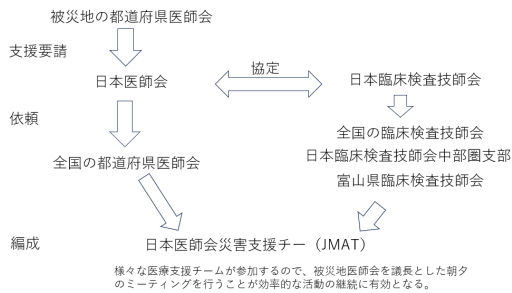


令和6年能登半島地震災害支援活動報告
富山大学附属病院検査・輸血細胞治療部
横田綾

この度の地震で被災された方々にお見舞い申し上げます。

富臨技の初動が私達に伝わってきたのは、元日18時過ぎの澤井副会長からの安否確認メールでした。南部会長を始め富臨技幹部の方々の激務スタートです。



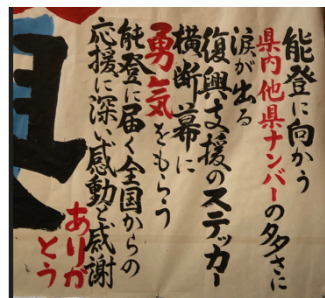
1月7日には富臨技災害対策本部が設置され、支援者の募集が始まります。1月13日の急性期DVT検診支援に当部の技師が行くと決まったのは1月11日。それから2月11日の終了までに延べ18名が支援活動に参加させて頂きました。



初日のチームは5名。発災からまだ2週間経っておらず、本当に手探り状態での出発でした。TV報道で見る道路状況は悪く、余震も心配。トイレは？コロナは？帰れないかも？どこの避難所に行くの？それでも「8時までに石川県庁に行って日臨技の人と接触する。」という指示を受け、富臨技ジャンパーを持って出発しました。



避難所では、問診、血圧測定、下肢静脈US、弾性ストッキング指導、採血、測定（Dダイマー、血糖、PT-INRなど）を行い、DVT陽性率は10～20%と高率でした。



能登高等学校書道部の書の一部です。

全国津々浦々から災害支援者が集ってました。その一人として活動させて頂けたことに感謝します。そして、救援と復旧の作業が速やかに進むことを心から願っています。